

実相寺の

仁王さん



岩本の実相寺は、日蓮聖人しやうじんが立正安国論を練り上げ、説法を行った寺として知られています。

また、この寺にある一対の仁王像は、江戸初期につくられたもので、市の指定文化財になっています。  
今回は、この仁王さんのお話です。

昔、日本に仁王という力持ちが住んでいました。仁王は日本中の力持ちと相撲や綱引きをしましたが、だれも相手になりません。そんなある日、「仁王どん、隣の中国に『どっこい』という力持ちがいるそうよ」と教える者がいました。そこで仁王は「よし、力比べをしてみよう」と舟をこいで中国へ出かけていきました。

国中を探し、やっとどっこいの家を見つけましたが、どっこいは留守で、ばあさまがいました。「そろそろ戻らから待っていなさい」と始めた飯の支度を見て仁王はびっくり。大きな釜に何俵もの米を入れて炊き出したのです。すると、ズッシン、ドシンと地響き音が聞こえてきました。仁王が「ばあさま、あれは何の音じゃ」と聞くと「あれは息子の足音じゃよ」。そのうちに家が地震のように揺れ始めました。

仁王は「これはかなわん、今のうちに逃げよう」と思い、便所から逃げ出しました。

どっこいが帰ってくると、入り口に大きなわらじがありました。「お客さん？」「ああ、日本の仁王が力比べにやってきた。今、便所に入っているよ」ところが、なかなか出てこないの、のぞいてみると、もぬけの殻。どっこいは、大きなかりを持って追いかけてきました。

遠くに仁王の舟が見えました。どっこいは「力比べをせずに逃げるとはひきょうだ」と言って、舟を目がけていかりを投げました。すると、いかりは見事、舟に突き刺さりました。

仁王は必死で舟をこぐ。どっこいは綱を引く。二人はお互いに力持ちです。とうとう綱は切れてしまい、仁王は海

に落ち、どっこいも力余って海に倒れました。ドドド…。大きな津波が起きて日本と中国に押し寄せ、大勢の人々が死んでしまいました。

仁王は「悪いことをした。もう二度と力比べはしないから許してくれ」と中国にも行って謝り、日本に帰ってからは、お寺の門番になりました。どっこいも日本にやってきて謝り、「もし、何か力のいるときはおらを呼んでください。そうしたら一生懸命働きますから」と言って帰っていきました。

それからというもの、今でも人々は力を出すときに「どっこいしょ」とどっこいを呼ぶようになったのです。

(日本のふしぎな話  
「におうとどっこい」から)

昔は、実相寺の仁王門の屋根裏にムササビがすんでいたんだよ。仁王門の横に杉の大木があって、門との間を飛び交っていた。仁王さんは、子供にはちよつと怖いものらしいね。このあたりの子供は、悪さをすると「仁王さんのとこへ捨ててきちゃうぞ」とよくしかられたもんだ。



鈴木正義さん（岩本）

こちら編集室

秋の行楽シーズン真っ盛り。御多分に漏れず編集室も旅行へ出かけることに…。本来ならば一泊旅行を予定していたが、衆議院議員選挙と重なったことと、観戦予定のサッカーチケットがキャンセルできなかったため、土曜日だけの日帰りになってしまった。そのお

かげで、電車を乗り継いで職員旅行を初体験することになった。

幹事に言いたい放題、飲みたい放題と協調性のない我々を統制するのに幹事も大変だったと思うが、帰ってきたときにはグツタリ。やっぱり旅はユツタリがいい。

(幹事さん、ご苦労さん)

人口 234,615人  
男 116,873人 女 117,742人  
世帯 74,914世帯 (10月1日現在)  
発行・編集 富士市総務部広報広聴課  
静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

